

# HIKARI

新しい未来へ



*Ut filii lucis ambulate*

特集 表現する力 相原幸典 特任教授

グローバル化を見据えた教育を

Wake-Up全員留学

変革期によせて

卒業生たちの活躍



# グローバル化を見据えた教育を



学校法人 梅光学院

学院長・大学長 樋口 紀子

Noriko Higuchi

1982年、梅光女学院大学(現：梅光学院大学)英米文学科を卒業。同大学院英米文学専攻修士課程を修了。学院長・大学長を兼任する傍ら、教会で牧師も務める。

グローバル化を見据えた人材育成に力を注ぐ梅光学院大学では、「希望者全員参加型」留学制度の導入や実践的な学びの提供により、語学系3専攻への志願者数が年々増加しています。そこで、2019年度入学より語学系3専攻の募集定員を増加※、さらに、「日本語・日本文化専攻」を新設※するなど、変革期を迎える大学の“今”を樋口学長が語ります。



## 今後のグローバル化を見据え発信型の人材を育てたい

本学では、2015年より「文学部」と「国際言語文化学部」の2学部3学科を改め、「文学部」の1学部1学科5専攻に改編しました。ここでは学生が将来社会に出て働くことを意識した学びや専攻を超えて幅広い学びができるようなしくみづくりをするだけでなく、その他にもグローバル社会で活躍できる人材育成に重点を置いた「国際ビジネスコミュニケーション専攻」を新た

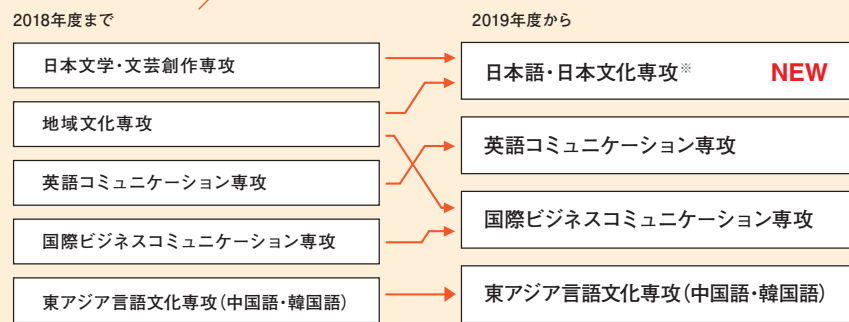
に加え、「日本文学・文芸創作専攻」「地域文化専攻」「英語コミュニケーション専攻」「東アジア言語文化専攻(中国語・韓国語)」を設置。希望者全員参加型の留学制度を設けると同時に、実践的な語学教育を展開していくことで、語学系の学生数の志願者数、入学者数を大幅に伸ばすことができました。そこで、2019年度の学生募集では、語学系3専攻の定員を増加※。一方、「日本文学・文芸創作専攻」と「地域文化専攻」を一つにまとめ、「日本語・日本文化専攻」として新たなスタート※を切るこ

とになりました。名称を「日本語・日本文化専攻」※とした背景には、グローバル化を見据えて発信型の人材を育成したいという強い思いがあります。

## 聴く・話す・読む・書く 社会で必要な4技能を強化

英語の学びでは、「聴く・話す・読む・書く」の4技能の習得を目標に掲げていますが、日本語の学びにおいては曖昧な部分が多く、その4技能をバランス良く習得できて

## 新しく生まれ変わる文学部人文学科※



いないと思います。例えば、一年生の初期段階で物事を論理的に表現する「日本語表現法」の授業がありますが、思ったこと、考えたこと、経験したこと等を文字で表わすことが難しいばかりか、人前で論理的に語ることができない学生も多く見られます。しかしながら、何れ迎えることになる就職活動はもちろん、社会に出ると、人前で話す重要度はさらに高まるでしょう。その際、こうした力を身につけていることが必要と考えます。「日本語・日本文化専攻」※では、こうした日本語の4技能の強化にも取り組みたいと考えています。

## 日本文学、日本文化の魅力を 外に発信する力を養う

私たちは、日本文化の中で生きていますが、外国の方から「茶道とは何?」、「神道と仏教の違いとは?」など、日本文化について尋ねられた時、しっかりと答えられないこともあるのではないのでしょうか。それは、日本のことを学んでいても、自分たちの文化としてきちんとした認識ができておらず、発信する力が備わっていないからだと思います。だからこそ、何か日本のことを海外の方に尋ねられた時、明確に答えられない自分を発見し、いかに自分が日本のことを知らないのかを、あらためて気づかされるのです。そこで、本学の学生には、そのことに気づくために、学生時代にできるだけ海外に出て欲しいと思っています。希望者全員参加型の留学制度の導入により、語学系の学生の多くが海外語学留学を経験するようになりました。また、語学留学以外にもこの数年間で実習や研修、ボランティア活動等、海外体験ができるプロ

グラムを増やしてきましたが、語学専攻以外の学生たちはなかなか海外に出ようとしません。しかしながら、海外に出てこそ、日本語をきちんと語れない自分、日本文化について知らない自分に気づくことができ、その体験を得て帰国することで、本当の意味で日本語や日本文化の学びを深めることにつながると考えています。同時に、グローバル化が進む社会で、日本文学を外に発信できる人になって欲しいという願いもあります。つまり、日本語の「聴く・話す・読む・書く」の4技能をきちんと身につけ、日本文学や日本文化に精通し、その特色を外に向けて発信できるようになることが、新設する「日本語・日本文化専攻」※のコンセプトなのです。

## 求められるのは、実践的な学び 大学教育の役割を果たすために

大学教育とは、4年間の学びを確保するだけでなく、学生たちが生きるこれからの10年先、20年先を見据えたものであるべきです。学生たちが社会に出ると、就職先で海外赴任を経験するかもしれませんし、日本にいながら外国の方と一緒に仕事する機

会を持つかもしれません。職場以外にも、家の隣に外国の方が引っ越してくるかもしれませんし、施設で親世代をケアする人が外国の方かもしれません。これからの時代、グローバル化が進むにつれて、今まで以上に国や地域を越えた交流が発展していくでしょう。そのような社会の中で、学生時代の海外経験を通じて外国には違う考えや文化があると知っているだけで、対応の仕方も変わると思います。さらには、国や地域を越えた交流を、アジアを中心とした外国の人々と横の関係を築きながら、環境問題や教育、少子化対策など、課題に対してどのように取り組んでいくのかを一緒に考えられる人間になって欲しいという思いもあります。そのためには、自らの学



びを通して自分自身の境界線をもっと広げる必要もあるでしょう。そして、それは多くの人にとって最後の教育段階である大学にしかできない教育でもあると考えています。目まぐるしく変化する今の時代だからこそ、社会の流れに応じて大学教育の在り方も変わらなければなりません。これからも、梅光学院のベースにある「キリスト教信仰に基づく人格教育」をしっかりと受け継ぎ、社会の変化に柔軟に対応しながら、グローバル社会へ巣立つ学生の未来に相応しい“経験に基づく実践的な学び”を重視した教育を提供したいと思っています。



※設置認可申請中

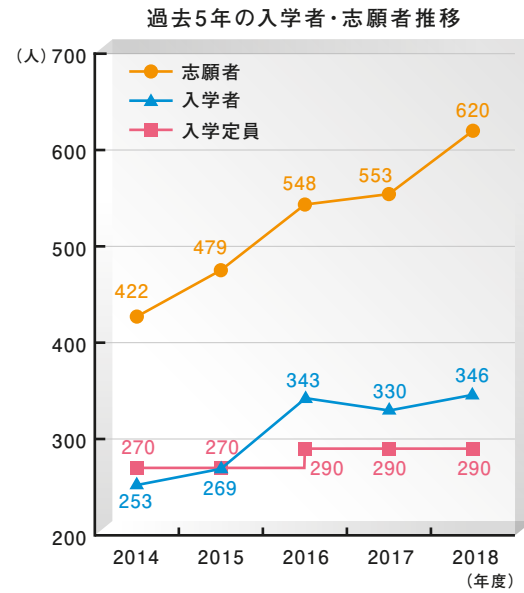


# Topics

## Topic 1 2018年度入学状況

### 入学定員充足率、志願者数ともに好調

2018年度梅光学院大学入学式を4月2日(月)に挙行し、希望に満ちた346人(文学部235人、子ども学部111人)の新入生を受け入れることができました。本学の入学定員290人に対し、入学定員充足率は119%となり、極めて安定的な学生募集を実現できました。地域別にみると、北九州市を中心とした福岡県からの入学人数が大きく増えたことが特徴的でした。18歳人口の減少により、地方中小私立大学の経営が厳しさを増す中、過去3年続けて入学定員充足率は100%を超過しており、志願者数も2018年度は620人と、過去5年右肩上がりの状況を維持しています。このような学生募集の傾向は、時代に合わせた本学の教育、研究活動に対する社会的な評価によるものだと考えています。



## Topic 2 新校舎起工式

### 春完成予定の新校舎の安全成就を祈願

3月20日(火)、新校舎の起工式を執り行いました。本学関係者のほか、新校舎の設計を担当していただいた建築家の小堀哲夫様や、施工を担当していただいている清水建設株式会社の方々もご参加くださり、工事の無事を祈りました。当日はテレビ局や新聞社の皆様も多数取材にお越しいただき、起工式終了後には模型を使って新校舎の詳細を説明する時間を設けました。新しい時代の新しい校舎として注目を集める新校舎の情報は、学院HP(<http://www.baiko.ac.jp>)でも詳しくご紹介しています。



## Topic 3 新留学制度

### グローバル化の進展に合わせて、留学プログラムがさらに充実。



文学部人文学科では、2019年度から新たなカリキュラムを導入予定。英語コミュニケーション専攻においては、1年間の語学留学が必修となります。これは、既にこうしたカリキュラムを導入している東アジア言語文化専攻において、中国語や韓国語の能力試験で企業から高い評価を得られる最高レベルの等級を多くの学生が取得するなど大きな成果をあげてきたことや、地方・都市を問わずグローバル化が進展している社会情勢を踏まえたものです。本学ではこうした機会を通じて、現代社会に対応する語学力や国際性を身につけることで、グローバル化が進展する現代社会において、本学の建学の理念「強くしなやかな精神と、新しい世界を切り拓く能力を、他者のために用いることのできる人間を育てる」を実践する人材の育成を進めていきます。

## 梅光を支える

### 変革期によせて

#### 「静」から「動」へ

私は、本学院の「静」から「動」への変動期に、教学改革推進・強化を目的として就任要請され、2016年に赴任しました。当時の組織は協働性がなく、教職員のパワーが分散し、生産性が低下…。私の役割はこの状況の打開でした。『梅光学院下関100年史』を拝読すると、本学院の教育はキリスト教伝道という創立以来のミッションに基づき、「静」的な人間関係の中で腰を落ち着けて人間社会でよりよく生きる「知」を生徒・学生に施すことのように感じます。この伝統は受け継がれてしかるべきですが、日本の18歳人口減少という学院存亡に係る事態の中で、伝統をどのように変容させながら本学院のミッションを継承するかは、重要な今日的課題です。この非常事態に際し、中野前学院長は入学者数等で低迷する本学院の現状打破と再生を願い、2013年に本間現理事長の就任を要請しました。本間理事長の教育に関する豊富な知識・実践力・世界観・統率力等が、本学院のパラダイムシフトを確実にするとみて改革を託されました。危機を乗り越えるためには、「動」的なことにも正面を切って対応することになり、一部で誤解や曲解がみられたようで

すが、本間理事長の改革方針に沿って、樋口現学院長が強力で闊達自在な姿勢で学院全体を動かし、意識変革下の教職員の協働と努力によって、大学の入学者数はV字回復。周囲の大学からも衆目が集まっています。一方、中高は、入学対象者が地域密着型であるため風評被害が強く、回復途上にあります。本学院関係者や同窓生には中高を理屈なく大切にしたいと心から願うばかりです。

#### 過保護が育む信頼関係

本学院の教育について学生に過保護であるという指摘もありますが、学生に合った徹底した過保護は、好ましい対応だと捉えています。この考えには、私の就職当時の上司の影響があります。彼は、海軍上りの敬虔なクリスチャンであり、どのような状況下でも学生を第一に考えていました。この彼の行動をはっきりと理解できたのは、彼の葬儀の時です。教会は参列者で埋め尽くされ、彼への賛美で教会全体が揺れていました。この時、彼の学生教育への情熱と学生への敬愛は、彼の強く深い宗教性に根ざしているものと論されました。今でも「学生には過保護でいい」と強く教えられたことに感謝しています。

#### 新しい教育とともに梅光再生へ

本学院では、学院長や教職員すべてが生徒・学生をよく見えています。教育プログラムでは、グローバル化とあらためて言う必要もないほど海外留学が盛んです。ボランティアなど他者の役に立つプログラムも多く、生徒・学生の自信を深める機会にもなっています。今年度には、大学にアクティブラーニングを日常的に展開できる新校舎を整備するなど、「静」的な時代では想像できなかった早さと推進力で、今考えられる教育上の工夫や今後必要となる教育事業等の開発と実践が続いています。前向きに教育改革を積み重ねる姿を生徒・学生に、保護者に、社会に見せ続けているのが今の本学院であり、その中に本学院らしい生徒・学生との丁寧な交わりを実感しています。そして、生徒・学生との好ましい信頼関係が梅光再生プログラムを強く支えていると感じます。現在の組織改革は、長く厳しいと今は感じられますが、150年の歴史からみればほんの一瞬です。私は、その一瞬でも本学院の改革に参画できていることを光栄に思い、与えられた役割を徹底して成就したいと考えています。

梅光学院大学

副学長 各務 正

Tadashi Kagami

1949年生まれ。博士(医学)。1972年順天堂大学入職後、新学部開設や医学教育、国際交流、経営企画などの各職務を定年まで歴任。また、1999年から大学行政管理学会「大学職員」研究グループ・リーダーとして全国の大学で実践重視の人材能力開発に関する研究や研修を指導。



## 演劇の力を以って

## 人生の指針となるものを

## 伝えたい。



## 相原 幸典 教授

Yukinori Aihara

幼少時代、合唱団や子役としてテレビ出演したのを機に、演劇の世界へ。文学座退団後の木村光一氏主催「地人会」の舞台に出演後、文化庁芸術派遣員としてニューヨークに単身留学。名門アクターズ・スタジオで演劇を学び、帰国後は、俳優・脚本家・演出家として活躍しながら独自のメソッドを確立。エイベックス・グループのアクターディレクターとして、多くのアーティストや俳優を指導する。2016年度より非常勤講師、2018年度より特任教授に就任。

俳優養成学校として世界的に有名なアクターズ・スタジオで学び、日本で演劇指導しながら独自の理論を構築してきた相原教授。人間の内側に秘められた本質的な“欲求”を考えることで、作家が用意した台詞に含まれる本当の意味を役者と演出家で深読み、あるいは、間違いを恐れず、柔軟な解釈をする『欲求メソッド』。音楽という概念に助けられながら言葉の力を発揮する『音楽メソッド』など、表現にまつわるさまざまなメソッドを生み出してきました。「私の授業では、文章表現を学ぶにしても、サブカルチャーを学ぶにしても、書いて『話す』ところまでが授業です。書き上げた時点でOKというものではなく、自分が書いた内容をどれだけ人に伝えることができるか、その力を身につけていきます。肝心なのは、話し方や伝え方。学生が社会に出た時、いちばん芯になるものを学んで欲しいと考えています。」

数々の人気アーティストを輩出する国内大手プロダクションのアクターディレクターとして、多くのアーティストや俳優を指導・育成してきた相原教授が、実践的な学びを重視した教育改革を進める梅光学院と出会い、初めて教壇に立ったのは2016年の夏でした。「教える対象が、俳優として売りたい、アーティストとして売りたいという子から、学びたいという学生に変わりました。つまり、教える対象が『売りたい』という即物的欲求を持つ子から、『学びたい』という形而上なる学生へと変わったのです。学びとろうという貪欲性に多少の差異はあるのかなと思っていましたが、2時間、3時間と授業を進めていくうちに学生たちの関心が高まり、授業の終盤には、一人の学生が自分で書いた文章を読み上げる

と、そこにいたクラスの全員が涙を流すということもありました。気がつけば、私自身も泣いていましたね。大学生が書いた文章で、こんなに感動させられるのかと驚かされました。私としては、エンターテインメントの世界でやり尽くした感じもあり、ほぼ真っ白に近い学生たちに、私自身が歩んできた演劇の力を以って人生の指針となるものを伝えられたらと考えるようになりました。私が学生だった頃は、教授の話なんて少しも面白くありませんでしたが、私の授業は楽しいと思いますよ」と笑顔で話します。

相原教授の授業では、テレビ、映画、ラジオ、インターネット、SNSなど、学生たちの身近にあるメディアを教材にしながら、社会に出た時に必要となる自己表現力やプレゼンテーションスキルを養います。その授業は、学生からの人気が高く、授業中はいろいろな話題で盛りあがっているそうです。東京と山口を行き来する相原教授に、梅光学院の学生たちの印象を尋ねました。

「ひと言で表現すると、ナチュラルだと感じました。極端に大人しい訳でもないし、エッジがききすぎてもいない。そんな彼らを、“社会から求められる”学生に育てたいと考えています。例えば、彼らが書いた作品をコンクールに出品するために、最後の切手を貼る作業を私がしてあげられたらと思います。また、自分の視点を『伝えられる人』になることで、社会においてチームを牽引できる人づくりにつなげられたらと思いますね。つまりリーダーを作る。学生に寄り添うといえば格好いいかもしれませんが、後ろから背中をドンッと押してあげる存在になれたらと思っています」。



## 梅光学院の好きなところ

生徒同士はもちろん、学生と教員の距離が近いところです。

## 卒業生へ伝えたいこと

チャンスに気づくことが成功への道。今、自分に光があたっていると思ったら、迷わず突き進んでください。

# 表現する力



入学後、即海外へ！新生活を海外からスタート！

# Wake-Up 全員留学

## Wake-Up 全員留学がめざすもの

### 1 英語力の向上

グローバル化の進展する世界の中で、世界共通語としての英語の重要性は増すばかりです。新大学入試においても改革の大きなポイントの一つであり、実践的な4技能型の英語力は不可欠です。Wake-Up 全員留学をととしてリスニング力、スピーキング力に加え、本物の素材をととしてリーディング力、ライティング力もしっかり鍛えます。

### 2 多文化理解による視野の拡大

外国に行けば、自分たちと違った生活を営み、異なる価値観や信念を持つ人がいることがとてもよく分かります。新しい文化に触れ、それを受け入れることは幅広い視野を持つことであると同時に、自己を客観的に見つめることでもあります。私たちとは異なる他者に出会い、その人たちのために何ができるかを考える機会となります。

### 3 日常生活から離れた環境における自律

Wake-Up 全員留学は、本校入学という新しい節目とほぼ同時に行われる研修です。家庭での親に依存した暮らしから離れて、全く異なる環境で自律した生活を送ることが狙いの一つです。この経験をととして、他者との関わり方や自分で考え行動することを学びます。また、自分を支えてくれる人への感謝の気持ちを持てるようになって欲しいと考えています。



#### 中学1年生

#### カナダ バンクーバー

#### Student's VOICE

最後まであきらめずに頑張ることが大切。他の学校ではできないような体験ができています。

私が梅光を志望したきっかけは、オープンスクールで訪れた時、先輩たちが楽しそうに過ごしている姿を見たからです。私もいろいろなことを体験して、学校生活をしてみたいと思いました。入学するとすぐに、カナダのバンクーバーで2週間過ごす『Wake-Up 全員留学』に出発しました。海外旅行が好きな母がいろいろな国を訪れていたことを知っていたので、「私も外国に行きたい」と留学できる日を楽しみにしていました。英語が通じないために困ることもありましたが、伝えたい内容を英語できちんと相手に伝えることができた時は、とても嬉しく思いました。

今回の留学を通じて私が学んだことは、どんなに大変なことでも最後まであきらめず

に頑張ることです。今では、どんなことでも最後まで粘り強く取り組めるようになったと思います。また、梅光だからこそ、他の学校では体験できないようなことが体験できていると感じています。私たちがやりたいと思うことを実現できるように、先生方が全力で協力してくださるのも梅光の魅力です。梅光に入学して本当に良かったと思っています。

#### 木津 七音さん

Shion Kizu  
中学1年生  
北九州市立吉田小学校  
●所属クラブ/イングリッシュクラブ



#### Guardian's VOICE 「かわいい子には、旅をさせよ」2週間の留学で驚くほど急成長!!

小学校を卒業したばかりで、英会話が必要なホームステイは無理なのではと心配でした。留学中はClassiによって楽しんだり頑張っている様子を知ることができ、さらに先生方のサポートで生徒同士が助け合いながら、いろいろなことを解決していく姿に親として安心しました。帰国した娘は自信に満ち、達成感あふれる笑顔がとても輝いていました。一目見て、留学体験が大きな成長につながったのだと実感しました。

保護者 高野 彩美さん

#### 高校1年生

#### フィリピン パナイ島

#### Student's VOICE

自分たちに何ができるか考え、行動できる人へ。今ある当たり前の日常に感謝し、精一杯に生きていきたい。

私が留学したのは、フィリピン・イロイロ市にあるMK(Metro Korea International Language School)とCPU(フィリピン中央大学)です。語学研修をメインに、さまざまなボランティアに参加。また、スラム街での暮らしを実際に見て学び、7人の子どもの育てる母親にインタビューを行いました。「ウエストピッカー」として生計を営むその家族は、ゴミ山の中から廃品を回収し、1日約150～200ペソ(日本円で300～400円程度)のわずかな日銭を稼いで暮らしています。「子どもが全員学校に通い、学問を修得することが夢であり、子どもたちと過ごす毎日に幸せを感じる」という母親の言葉が強く印象に残りました。当たり前のよう勉強ができる、学問を学べる環

境があるのは、本当に幸福なことだと感謝しました。今回の留学を通じて、苦手だと逃げていた英語を自主的に予習して取り組むようになり、最終テストで良い結果を出せたことが自信につながりました。また、親元を離れたことで、親に頼ってきた自分に気づくことができました。さらに、現地の人々の暮らしや環境問題、貧困問題の現状を知ることができたと同時に、どんな暮らしであろうと大人も子どももみんな優しく、親が子どもに対して注ぐ愛情は日本と変わらないことが分かりました。私たちにできることは、日本でたくさん勉強して、自分たちに何ができるかよく考え、行動に移すことだと思います。今までは、日本での暮らしが

当たり前だと感じていましたが、決してそうではなく、お金、物、水、食べ物、人、全てのものを大切に、今ある当たり前の日常に感謝し、今を精一杯に生きていこうと思いました。



#### 葉若 桜菜さん Haruna Hawaka

高校1年生  
田布施町立田布施西小学校 田布施町立田布施中学校  
●所属クラブ/ミュージカル部 ●委員会/宗教委員会

#### Guardian's VOICE 生きた英語力を身につけて帰国！新入試に必要な4技能も伸ばせます

「高校に入学したら海外へ行き英語力を伸ばしたい！」という息子の夢を叶えるのにぴったりだったWake-Up 全員留学。初めて訪れる国、新しい環境でスタートした高校生活は、彼の将来を考える上で大きな成長の機会となったようです。安心して過ごせる環境の中、集団生活を通して「協働」を学び、フィリピン人の先生との毎日の英語学習により、「生きた英語力」を身につけての帰国となりました。梅光では、英語の4技能をさらに伸ばしてほしいと願っています。

保護者 廣田 薫さん



## 大学と高等学校の連携プログラム

### 「接遇&マナー研修」と、スターフライヤー社のモックアップ体験を行いました。

「ANAエアラインスクール」と教育連携協定を締結している本学院では、2月12日(月)に将来エアライン業界をめざす梅光学院大学の学生7名と梅光学院高等学校の生徒6名がANAエアラインスクールの接遇&マナー研修を受講しました。

ANAの現役キャビンアテンダント講師により行われた講座では、キャビンアテンダントの仕事内容やフライトについての説明にはじまり、お辞儀の仕方・話し方等の指導を実際に受けながらキャビンアテンダントが日常大切にしている「接遇」について学びました。

学内で講座を受けた後は、北九州にある株式会社スターフライヤー様の実際の訓練施設に移動し、講座で学んだ内容を活かしてモックアップを使ったロールプレイに臨みました。研修終了後は、多くの学生・生徒に積極性が見られるなど、見違えるように成長し、めざす将来像が明確になったようです。

今回、高大連携事業の一環として、大学と高校の共同で行われた研修では、大学生が高校生を積極的にサポートするなど、高校生と大学生の間に新たな絆が生まれる機会となりました。



## 校長就任挨拶

### 今春の理事会において梅光学院中学校・高等学校長に選任され、4月1日に就任いたしました。

私は、梅光学院大学学長を6年間、梅光学院学院長を1年間、勤めて参りましたが、私がこの間、最も注力したことは「学生主体の学校作り」と「経験による学びを通して学生の成長を促す教育」です。それは梅光学院の中学校・高等学校においても大切なことであると思っています。特に、今年から始まる「Wake-Up全員留学」は、初期の段階での学びの動機づけをする大切なものです。この他にも前任者の島田先生が残してくださったさまざまな取り組みを継承しながら、今の時代に即した学びを進めて参ります。そして、それらを通して得た知識や経験及び能力を他者のために用いることができる生徒を育成していきたいと思っています。生徒そして保護者の方々が本校に進学して良かったと思っていただける学校作りを進めていく所存でございます。卒業生の皆様の本校教育への今まで以上のご理解とご協力をお願いし、着任のご挨拶とさせていただきます。

梅光学院学院長  
中学校・高等学校長  
樋口 紀子



## 梅光学院幼稚園での取り組み

梅光学院幼稚園では「こひつじグループ」「ふろむぜろ」「園開放」など、さまざまな子育て支援を行っています。

### こひつじグループ(2歳児親子クラス)

梅光学院幼稚園では、自我の芽生えの時期を親子でゆっくり過ごすことができるよう、子どもにとっても親にとってもよい育ちの場所を提供し、そのお手伝いを目的として、2015年度より「こひつじグループ」をスタートしました。室内でも戸外でもよく遊ぶ子どもたち。子どものそばで静かに寄り添うお家の方たち。「お母さんと一緒に」が子どもたちにとっては嬉しく、親子で安心して過ごしています。好きな遊びを心から楽しむお母さんや大人たちの姿は、子どもたちの興味をさらにひきつけます。好きな遊びを見つけ、時間いっぱい楽しむ子どもたちの姿が、家族の方の喜びになっています。みんなで遊んで、大きく育っていきましょう。



### ある一日

安心してじっくり遊ぶ時間、見守られて過ごす時間は、子どもたちにとってかけがえのないものです。

第2園舎の畑の横では、ダンゴ虫に夢中になったり、花に水をあげたり、思い思いの遊びを楽しんでいます。



シフォンを使ったわらべうた「ジジーバー」。ラストでふんわりと落ちてくるシフォンをキャッチする瞬間が気に入って何度も親子で楽しみました。



対象 2歳児親子 日時 火曜日クラスまたは木曜日クラスの週1回 時間 9:30～11:30

内容 わらべうた遊び、絵本読み聞かせ、自然と触れ合う野外活動を通した親子活動、室内遊び、戸外遊び、おやつ

食育にも力を入れています

### ふろむぜろ(子育て支援スペース)

子育て中の保護者の方が子どもたちと一緒に気軽に集まり、育ちあう場づくりをめざして、0歳児から親子で利用できる子育て支援スペース「ふろむぜろ」を提供しています。開所時間の好きな時間に来ていただき、三輪車や、お花摘み、虫探しなどの外遊びをしたり、室内での遊びを楽しむ事ができます。お子さまを見守りながら遊んだり、お昼ご飯を食べたりと、一緒にゆったりとした時間を過ごしています。



こひつじグループと合同企画で「お母さんの小さな手仕事の会」「わらべうたとおはなしの会」も開催されています。

対象 0歳児親子～未就園児  
日時 月曜日から金曜日  
時間 10:00～14:00(お好きな時間に利用可能)  
昼食11:30～

\*ご希望の方は、昼食を持参してください。  
一緒に食べましょう。いつもと違う環境での食事は、お子さまにとって嬉しい時間になるようです。

内容 室内自由遊び、手遊びや歌、絵本読み聞かせ、戸外遊び  
\*幼稚園の保育に支障がない時間帯は園庭でも遊べます。



お子さまを見守りながら、遊んだり、お昼ご飯を食べたりと、ゆったりとした時間を過ごしています。

### 梅光学院幼稚園

キリスト教信仰に基づく保育(神さまのお話)、遊びを中心に捉えた保育(遊びの時間)、柔軟性のある世界観を養う保育(英語の時間)を3つの柱として、子どもたち一人ひとりが大切にされる保育をしています。3歳児・4歳児・5歳児の各1クラスがあります。



社会で活躍する卒業生が

# 「あの頃」を語ります。

## 人と人のつながりから 何かが生まれる喜び

### 梅光へ進学した理由は？

高校生の時、ホームステイでサンフランシスコに滞在しました。外国に憧れていた私にとって、生まれてはじめての海外経験です。そこに住む人々のおおらかでフレンドリーな人柄に触れ、日本とは異なる自由な雰囲気居心地の良さを感じました。その経験から、もっと深く英語を学びたいと梅光に進学しました。

### 学生時代の思い出といえば？

小学生の頃から放送部に所属し、将来はアナウンサーになりたいと考えていた私。梅光の入学式で放送研究部の活動の一つに中四国大学の軟式野球大会で憧れの“うぐいす嬢”になれると知り入部しました。近隣のグラウンドで試合がある時は、私たちが場内アナウンスを担当します。大会での場内アナウンスや、大学野球の選手たちとの交流を楽しんだ青春時代が懐かしいですね。ほかにも、大学祭の実行委

員や当日の司会、他大学の大学祭の司会、北九州市内6大学の渉外を担当するなど、多くの方と交流を持つ経験をさせていただきました。

### 梅光で学んだことは？

人と人のつながりから何かが生まれる喜び、その大切さを学ぶことができたと思います。英語の勉強も忙しく、慌ただしい毎日でしたが、とても楽しくキラキラと輝いていた2年間だったと思いますね。そして、素晴らしい友人にも恵まれました。卒業してからずっと、その素敵な出会いの連鎖を感じることがあります。最近も哲学を学んだ荒木正見先生と、数年前に再会する機会に恵まれ、私のラジオ番組に出演していただきました。今でも梅光に縁がある人々に引き寄せられている気がします。

### 今後、実現したい「夢」は？

今の香りブームでは、合成香料も多く使わ

れていますが、自然の植物の香りならではの効果や必要性をもっと多くの人に伝えたいという夢をカタチにしていきたいです。約20年前、国内唯一のアロマテラピースクール「ハーバートハウス」でアロマテラピー第一人者の栗崎小太郎先生に学んで以来、私自身もアロマの香りに幾度となく助けられました。また、香水文化が息づくフランスで、色彩や街並み、人々のファッションなどに多くの刺激を受けながら、ワクワクした毎日を過ごしてみたいです。



撮影協力：リビング北九州オープンオフィス「よんご」さま

### AROMA DIRECTION

代表 一刈 美穂さん

梅光女学院短期大学 英米文学科

博多大丸・福岡三越・小倉井筒屋等の百貨店や医療・福祉施設・飲食のほか、さまざまな空間に“毎月変わるオリジナルの香り”を届けるアロマ空間デザイン事業を展開。セミナー講師やラジオ番組のMC、司会業なども務める。

## 子どもたちに“英語を使う”楽しさを伝えたい



### 梅光へ進学した理由は？

4才年上の姉が通っていたこともあり、自然な流れで進学しました。梅光には当時から外国人の先生が複数名常駐されていて、日本人のご高齢の先生から若い先生まで一緒に英語で話す姿を見ては「素敵だな」と憧れていました。大学進学では、これからは英語が大切になるだろうという父の勧めで英米文学科に進みました。

### 学生時代の思い出といえば？

梅光の中高時代といえば、決まって思い出すのが朝の礼拝です。友人たちと毎日賑やかに過ごしていた私ですが、朝の礼拝で心を鎮めて一日をスタートさせるあの感覚がとても好きでした。クリスマス礼拝の厳かな雰囲気も強く印象に残っています。大学4年次には、短期留学でアメリカへ。帰国後も英語を話したいと教育実習先の外

国人の先生と親しくなりました。客人をもてなすのが好きな我が家で、その先生と両親の間に、生活密着型の通訳をしていた日々も懐かしい思い出です。

### 梅光で学んだことは？

厳しくも優しい先生方から本当にたくさんの教をいただきました。当時から外国人の先生方が近くにいる環境があったから

こそ、学問として英語を学ぶだけでなく、生活密着型の生きた英語を使うことができるようになり、その面白みに触れることができました。とはいえ、梅光に入学したのも、大学で英米文学科に進学したのも、すべて父のアドバイスによるものでした。道筋を与えてくれた父にも感謝しています。

### 今後、実現したい「夢」は？

大学から英語を専門的に勉強しはじめた自分自身の経験から、子どもの頃から英語を使えるようになれば、もっと凄ことができるのではないかと考えるようになりました。めざすのは、英語で日常会話ができる人を多く育てることです。そのためには、英語を教える仲間を増やしたいですね。教え子たちが英語を使って、これからの未来を築く地域の子どもたちと関わるようになってくれたら嬉しく思います。また、いつの日かボーダーコリー犬のユメカと世界大会に出場する夢を叶えたいです。



### 梅光イングリッシュトータルコーディネーター

河合 津奈恵さん

梅光女学院高等学校・中学校

梅光女学院大学 英米文学科

乳幼児から大人までを対象に英語を教えて今年で32年目。2000年にModern English Clubを設立。2014年、本院の梅光イングリッシュトータルコーディネーターに就任。幼稚園英語・小学校英語統括、大学非常勤講師を務めるほか、児童英語指導者育成講師として地域の英語教育の発展に貢献している。



## 卒業生たちの活躍

## Baiko Gakuin Junior &amp; Senior High School



関西学院大学 国際学部国際学科

小川 浩樹さん

## Q.梅光を選んだ理由は？

歴史と伝統のある学校であり、母の母校でもある梅光の充実した英語教育が魅力でした。入学前のオープンスクールでは、趣のある校舎や講堂、窓から見える関門海峡の眺めに、「ここで学校生活を送れたらどんなに素敵だろう」と思いました。

## Q.高校時代の思い出は？

先生方が企画・運営にほとんど

干渉せず、生徒たちの手で作り上げる体育祭。個性的なクラス企画が盛りだくさんの梅光祭。神秘的な美しさで有名なクリスマス礼拝。そのどれもに梅光らしさが強く表れていました。

## Q.記憶に残る出会いは？

英語科の先生との出会いは、僕にとってとても大きなものでした。熱意をもって応援してくださったその先生が、向上心に

欠け、学ぶことを怠っていた私を厳しく叱ってくださったことはずっと忘れません。先生の「自慢の教え子」になることを目標に、かけてくださったたくさんの言葉を支えにして、日々の勉強に励んでいます。

## Q.あなたがめざす光は？

世界中の貧しい人々や恵れない子供たちの「光」となりたいです。

## Baiko Gakuin Junior &amp; Senior High School

青山学院大学 地球社会共生学部  
地球社会共生学科

池田 真桜さん

## Q.梅光を選んだ理由は？

ネイティブの先生から学び、ホームステイを経験できるなど、英語教育に力を入れる梅光に魅力を感じました。従姉妹が毎日をととても楽しそうに通う姿をみて、私も梅光で学びたいと思いました。

## Q.高校時代の思い出は？

常に近くにネイティブの先生がいるため英語に触れる機会が多かったことです。また、キリスト教の授業を通じて視野を広げることができたと思います。中高6年間通った梅光での高校3年生の最後のク

リスマス礼拝は、とても素晴らしい思い出になりました。

## Q.記憶に残る出会いは？

毎日と一緒に笑って過ごした友人や先輩との出会いです。辛い時や困難な時は支え合い、励まし合うことで、いろいろなことを頑張れたと思います。大学受験のために小論文や面接指導の時間を割いてくださった先生にも感謝しています。

## Q.あなたがめざす光は？

進学先もミッションスクールなので、聖書の言葉に触れながら、「光の子」として自分の行動や振る舞いでまわりの人を笑顔にできる人になりたいです。

## 2017年度高等学校進路実績

東京藝術大学 音楽学部、山口大学 理学部、鹿児島大学 農学部、大阪市立大学 家政学部、愛知県立芸術大学 音楽学部、北九州市立大学 文学部、下関市立大学 経済学部、山口県立大学 看護栄養学部、山口東京理科大学 工学部(2名)、青山学院大学 地球社会共生学部、国際基督教大学 教養学部、洗足学園音楽大学 弦楽器コース、東京女子大学 現代教養学部、日本大学 危機管理学部、明治学院大学(3名) 国際学部／心理学部／経済学部、立命館大学 理工学部、関西学院大学(6名) 国際学部／総合政策学部／人間福祉学部／文学部／商学部／教育学部、京都ノートルダム女子大学 現代人間学部、神戸学院大学 心理学部、九州産業大学 国際文化学部、九州女子大学 家政学部、西南学院大学 文学部、西南女学院大学 保健福祉学部／人文学部、福岡女学院看護大学 看護学部、梅光学院大学 文学部／子ども学部 ほか

## Baiko Gakuin University

下関市公立保育士・幼稚園教諭  
岩崎 優香さん

## Q.梅光を選んだ理由は？

高校で音楽を専門的に学ぶ中で、子どもと音楽を楽しみたいと思うようになりました。そこで、実家から通える梅光の子ども学部を志望しました。

## Q.大学時代の思い出は？

大学での学びはもちろん、友人と楽しい思い出をつくり、アルバイトを経験したり、充実した毎日を過ごせました。

## Q.記憶に残る出会いは？

信頼できる先生方、資格取得をめざし、同じ夢に向かって切磋琢磨し合える友人と過ごせた4年間でした。学生を第一に思い、成長を温かく見守ってくださった子ども学部の先生方に感謝しています。

## Q.これからの目標は？

先生方の教えを心に留め、保育者としての資質を高めながら歩んでいきたいです。子どもたちの多くの出会いをととても楽しみにしています。

## Baiko Gakuin University

ヤマト運輸株式会社  
梅本 夏来さん

## Q.梅光を選んだ理由は？

興味のある韓国語を専門的に学べ、留学期間を含めても4年間で卒業できる大学のプログラムに惹かれました。

## Q.大学時代の思い出は？

全員留学制度や枠の多い選抜留学制度のおかげで、長期間留学することができ、大好きな韓国への理解を深めることができました。

## Q.記憶に残る出会いは？

4年間の大学生活で、これまでとは比べものにならないほど、多くの学びに出合えたと思います。

## Q.これからの目標は？

生活に必要な物流は、今後も成長する分野です。留学や就活で頑張れた自分を信じて私自身も一緒に成長し、人々の暮らしを支える人になりたいです。

## Baiko Gakuin University

株式会社エフ・ジェイホテルズ  
榎田 浩太郎さん

## Q.梅光を選んだ理由は？

英語の勉強を深めたいと進学しました。梅光の一人ひとりに目が行き届く教育環境も魅力でした。

## Q.大学時代の思い出は？

仲間と一緒にサークル活動やボランティア活動に取り組んだことです。3年次は大学祭の実行委員として精一杯努めました。

## Q.記憶に残る出会いは？

日頃から丁寧な先生方、友好的ですぐに親しくなれた友人との出会いが何よりの宝物です。

## Q.これからの目標は？

梅光で身につけた英語力を活かしながら、人々を笑顔にできるホテルマンになりたいです。

## 2017～2018年度大学就職実績

三井住友銀行(2)、楽天銀行(5)、山口フィナンシャルグループ(3)、西中国信用金庫(3)、三井住友海上火災保険、楽天カード、第一生命保険(4)、日本生命保険(3)、明治安田生命保険(2)、日本郵便(5)、ヤマト運輸、日本通運、スターフライヤー、アジアナ航空(2)、ANA福岡空港(5)、JALスカイ九州、Kスカイ(2)、ニューオータニ九州、プリンスホテル、エフ・ジェイホテルズ(2)、ホテル日航福岡、ユニバーサルホテルマネージメント、リーガロイヤルホテル小倉、大谷山荘(2)、セブンイレブン・ジャパン、ファミリーマート(2)、ニトリ、ファーストリテイリング、JTB国内旅行企画、エイチ・アイ・エス、マイナビ、セキスイハイム中四国、セキスイハイム九州、再春館製薬所、山口県警察(3)、福岡県警察、光市役所、労働者健康安全機構、下関農業協同組合 ほか



## BAIKO TOPICS

## 卒業生専用サイト 梅☆ねっと ができました！

梅光学院では、インターネットを利用して同窓生ご自身で登録情報の変更ができ、同窓生の検索も可能な同窓生向けの新しいサービス「梅☆ねっと」を開始致しました。

「梅☆ねっと」でできること ●ご自身の登録情報の確認と変更 ●同窓生の検索・閲覧

ご自身の氏名や住所が変更となった場合、「梅☆ねっと」にアクセスすれば変更することができます。  
また、懐かしの同窓生の検索・閲覧ができますので、同窓会を行いたい場合などに大変便利なシステムです。  
\*同窓生情報は、情報を開示されている方の情報のみ検索・閲覧が可能です。情報を非公開にしている方の情報は検索・閲覧できません。

## ■ 梅☆ねっと

<https://pu.palsyne.net/umenet/>

ご登録・ご変更で  
学院報が届きます！



- ご自身の登録情報の開示の可否につきましてはご自身でご選択ください。
- 登録情報の開示設定は「全同窓生に公開」「同期のみに公開」「非開示」のいずれかです。



「梅☆ねっと」を初めて利用する際は、事務局までメールにてご連絡をお願いします。

梅☆ねっと事務局 メール [umenet@baiko.ac.jp](mailto:umenet@baiko.ac.jp)

## 後輩の未来のためのご寄附にご協力ください。

皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと、心よりお慶び申し上げます。  
梅光学院では、昨年より生徒・学生の活動支援の拡充を目指して募金活動を開始致しました。特に昨年は、梅光学院大学開学50年を記念として多くのご寄附を賜りました。ご支援賜りました皆様にはこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。  
本学の募金活動は、国内外での生徒・学生の教育、学習及び生活に関する支援の充実を図る事業等を対象とさせていただくものであり、これらの事業を通じて、地域、そして世界で活躍できる人財の育成に努めてまいります。本学の意をご賢察くださり、募金活動にご協力、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

梅光学院 学院長 樋口 紀子

このたび、パソコンやスマートフォンでご利用いただける、インターネット寄附金サイトを開設いたしました。(クレジットカード決済のみご利用可能)

【URL】<https://www.baiko.ac.jp/donation>

QRコードはこちら



## 編集後記

HIKARI第2号をお届けします。2018年度の入学者を見ると、大学は史上空前の346名を確保できたのに対し、中学校・高等学校は13名、50名と危機的と言えるほどの状況でした。学院としては、今年度、樋口紀子学院長・大学長に中学校・高等学校長を兼任させると同時に、生徒募集のための体制を格段に強化して、不退転の決意で中学校・高等学校の存続に向けて努力を傾注していく覚悟です。関係者の皆様のご理解とご支援をお願いする次第です。

学校法人 梅光学院 理事長 本間 政雄

